

いしのまき 普及センター通信



自動操舵ハイクリブーム



ドローン



直進アシスト機能付田植機

〔特集〕広がるスマート農業技術

令和5年4月より「宮城県RTK*システム」の本格運用を開始!

宮城県では「RTK基地局全域整備等によるスマート農業実装拡大事業」により、令和4年度に県内全域を有効範囲として網羅する7か所のRTK基地局の整備(2ページ写真)と、農業者へのスマート農機導入・実装に対する支援を行いました。令和5年4月からは「宮城県RTKシステム」の本格運用が始まり、県内どこでも衛星からの位置情報を活用したトラクター、田植機、コンバインなどの自動操舵やドローンの自動航行等の「スマート農業技術」が従来よりも手軽に利用できるようになりました。

*RTK・・・Real Time Kinematicの略。RTK基地局からGNSS (GPSなど、全地球上の位置情報を求める衛星システム) を利用した補正情報を受け取ることで高精度な自動操舵・運転が可能になります。

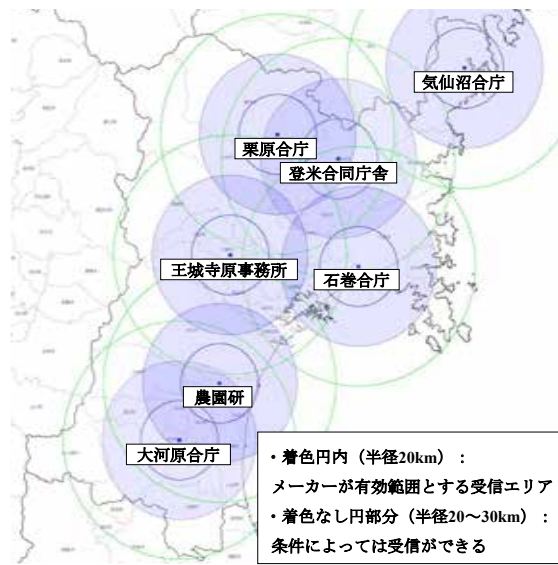
「宮城県RTKシステム」の活用事例

東松島市の(株)ぱるファーム大曲では補助事業を活用してドローンを導入し、今年から大麦の赤かび防除剤の散布を行いました。昨年までは薬剤散布を他法人に作業委託していましたが、今年からは自社作業で適期防除を行うことが可能になりました。ほ場の外周は手動とし、内部は自動で散布作業を行い、作業時間は20分/haでした。

石巻市の(農)高須賀農産でも自動操舵システムを導入し、今年はハイクリブームに装着して乾田直播栽培の出芽前除草剤の散布に使用しました(表紙写真)。以前に比べ時間当たりの散布面積が1.25倍に向上し、使用者からは「すごく良い。走行位置を確認するための目印の旗立てなどの手間もなくなる上、直進時は手が空くので作業跡の確認などに時間を使うことができ、気持ちの面でもすごく楽になった。」という意見が聞かれました。



▲ドローンによる大麦の赤かび防除の様子



▲RTK基地局の設置場所と有効範囲

プロジェクト課題紹介

新 小ねぎの産地の将来を担う人材を!

期間:令和5~7年度、対象:JAいしのまきスリムねぎ部会青年部(11人)

石巻市桃生地区において、JAいしのまき桃生スリムねぎ部会の生産者によって「スリムねぎ」のブランドで栽培されている小ねぎは、当管内における主要な園芸品目の1つです。

近年、部会員の高齢化が課題となっていますが、将来の担い手として若手を中心としたスリムねぎ部会青年部の方々の活躍が期待されています。

このため、普及センターでは令和5年度から3年間、スリムねぎ部会青年部の栽培技術の向上と、代々続いてきた産地の維持・継続を図るため、地域及び全部会員と共に部会の次世代を担う人材育成に携わっていきます。



▲小ねぎ生育の様子

春の農作業安全確認運動『徹底しよう!農業機械の転落・転倒対策』

継続 いちごの産出額増加を推進します

期間:令和4~6年度、対象:JAいしのまき共販部会(26戸)及び農業法人(7法人)

いちごは「みやぎ園芸特産振興戦略プラン」で令和12年度までに県内産出額100億円を目指す重要な品目となっています。石巻地域は、亶理地域に次ぐ県内第2位の産地となっており、産出額の増加が期待されています。

普及センターでは、主に技術指導の側面からいちごの産出額拡大を支援しています。栽培施設内の環境を適切に維持する環境制御や総合的に病害虫を防除するIPMなど新しい技術への取り組みが進み、収量や販売金額の向上など成果が見えつつあります。さらに、対象者個々が持つ課題改善に向けたオーダーメイドの生産技術や経営力向上支援により、それぞれがステップアップして発展していくことを後押ししていきます。



▲ 令和5年産栽培も生育は良好

継続 施設園芸法人の生産力向上を目指して

期間:令和4~5年度、対象:管内3法人

対象の3社は、複合環境制御システムや新規のハウスを導入し、(有)サントマト石巻ではトマト、(株)DannyFarmではなす、(株)絆粋ファーマーズではほうれんそう等葉菜類の栽培に取り組んでいますが、栽培技術や複合環境測定装置の有効活用、経営安定化が課題となっていました。

令和4年度は栽培技術の習得及び作付け計画作成の支援として生育・環境データに基づく栽培管理、施肥設計、かん水、病害虫管理における指導のほか、農業・園芸総合研究所やJA古川なす部会の視察を行いました。

令和5年度は前年の活動に加えて、越冬長期どりや周年栽培に伴う適切な病害虫管理、専門家派遣を活用した経営改善等の支援を行い、施設園芸法人の生産力及び経営力向上を目指します。



▲ 農業・園芸総合研究所 施設なす視察
令和4年10月20日

継続 長面地区における持続的な水田農業の実現

期間:令和4~5年度、対象:管内3法人

令和3年度から全面的に作付けが再開された長面地域では、米価が低迷している主食用米に代わり、稲態様の転作作物として飼料用米や加工用米、稲ホールクroppサイレージの栽培に取り組んでいます。しかし、復旧した農地の地力が乏しいために収量が低いことや経営規模の拡大に伴う労働力の競合が課題となっています。

そこで、有機物の施用による地力向上や適正な施肥管理による収量向上、移植栽培と乾田直播栽培を組合せた作業分散や省力化により、経営の安定化につながるよう支援していきます。



▲ 直播播種作業風景 令和5年4月5日

受賞おめでとうございます

令和4年度農山漁村女性活躍表彰優秀賞 石森さと子さん

令和4年度農山漁村女性活躍表彰の地域子育て支援部門で、東松島市の石森さとさんが優秀賞を受賞しました。

この賞は、農山漁村男女共同参画推進協議会が主催し、農林水産業及び農山漁村の活性化や農林水産業経営、政策・方針決定への女性の参画推進、次世代リーダーとなりうる若手女性の農林水産業への参入、地域の子育て支援など女性活躍推進のために積極的に活動している個人又は団体を表彰するものです。

このたび、JAいしのまき女性部の活動を通して、小中学生の食農教育を東松島市内に定着させたことや、年代別のレシピの作成、コロナ禍での体調管理等、SNSの発信による市民への食育活動を展開した石森さんの功績が認められました。



▲ 表彰を受ける石森さん:正面右

東部地方振興事務所農業振興部・石巻農業改良普及センターの紹介

■各班の主な業務

Table with 3 columns: Class Name, Contact Info, and Main Business. It lists various classes like '調整指導班', '地域農業班', and '先進技術第一班' with their respective phone numbers and descriptions of their work.

(※農地中間管理機構の駐在員による農地中間管理事業相談にも対応しています。)

石巻農業改良普及センター職員紹介(座席表)

A grid of staff profiles. Each profile includes a name, title, and specialty. For example, '小高 勝範' is the Deputy Director, and '菅野 千秋' is the Deputy Chief of Technical Support. There are also profiles for various class leaders like '高田 千春' and '川戸 菜摘'.

発行日 令和5年6月

発行 宮城県石巻農業改良普及センター(宮城県東部地方振興事務所農業振興部)

〒986-0850 宮城県石巻市あゆみ野5丁目7番地

電話 0225(95)7612・FAX 0225(95)2999

URL <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/is-nokai/>

この冊子は600部作成し、1部あたりの単価は約110円です。

